

# 週刊センターニュース No.272



第272号（2009年8月17日）毎週月曜日発行  
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL：[http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 〇〇〇 第242回共同学習会のご案内 〇〇〇

日時：8月20日（木）13時～14時半

※先週号では開催日時を21日（金）13時半～15時と記しましたが、20日（木）に訂正させていただきます。共同学習会への参加を予定されている場合、開催日時にご注意下さいますようお願い致します。

会場：角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

企画：渡辺達雄（大学教育開発・支援センター）

報告者：渡辺達雄（大学教育開発・支援センター）および授業担当者

テーマ：人間社会学域共通科目「大学・学問論」2009年度授業内容の検討

趣旨：後期に開講される人間社会学域共通科目「大学・学問論」について、授業担当者を中心に、今年度の授業概要を確認するとともに、学域共通科目の目的・理念および授業目標にもとづいて昨年度の授業を振り返って、教材や授業方法、授業内容の関連等、諸課題について具体的な検討を行う。授業担当者に限らず、大学論・学問論に関心をお持ちの教職員・学生の自由な参加を希望する。

## 〇〇〇 大学教員初任者に対するFDに関する研究について 〇〇〇

大学という組織は企業と異なり、学部・研究科・研究諸機関に共通した研修などを行うことは稀であるため、大学教員初任者（以下、初任者）に対して、部局間共通のセミナーや研修について内容の検討もされることも少なかった。しかし、平成20年度から大学院だけではなく、学部においてもFDが義務化され、初任者に対する部局間共通のFDの内容検討も重要視されてきている。

しかし、現状では初任者は何を必要としているだろうか？何を不安に感じているのでしょうか？田口ら（2006）は初任者FDに関する課題を整理することを目的に、着任後6年以内の教員103名を対象に初任者の不安に対して調査を行った。

初任者の不安については、教育方法に関する不安15項目、学生に関する不安15項目、教育システムに関する不安10項目の3因子合計40項目から構成される大学初任者不安質問紙（中村ら、2004）が使用された。その結果、「研究活動との両立に関する不安」、「授業内容に関する知識を自分が十分に持っているかどうかに関する不安」、「他の授業に劣らないような授業ができているかについての不安」の順に初任者の不安が高いことを示していた。各因子得点を教員経験2年未満と2年以上6年以内の教員と比較した結果、全ての因子で初任者の不安得点が有意に高いことが示された。またそれぞれの教員群の質問項目の平均値と質問項目の中央値2.5点と比較したところ、教員経験が2年以上6年以下の教員については研究活動との両立に関する不安のみが有意に高かったものの、2年未満の初任者は「授業中の話術に関する不安」、「学生の興味にあった授業ができているかに関する不安」、「大人数

講義に対する不安」など 14 項目において有意に高い値を示していた。特に多くは「教育方法に関する不安」因子に関するものであった。

田口ら（2007b）はこの結果を踏まえ、1 人の初任者教員に対して、1 年間計 24 回の講義を隔週で非参与観察を行い、教室への入室から学生の様子、授業開始までの行動・発言、授業中の教員と学生の行動や発言などに注目し、記録を行い、定期的にインタビューを行った。その結果、過去の教授経験を活かし、授業の最初での発言などを工夫する、学生の注意をつかむなど行っていたことがわかり、近年、注目されている教育方法に関する不安は示されなかった。一方で**一番不安が高かったのは教育システムに関する不安**であり、コースの主任に何度か挨拶に行っても会えず、いきなり授業評価を依頼されることや説明もないまま突然業務を振られるなど、授業とは関係ない部分で、予定が見えないという不安が高いことが示された。また同様に教育システムについては組織構成、学内制度などわからない部分が多く、不安が高いことが示されたが、「わからなければ教務に聞く」というパターン化された行動や若手の教員ネットワークを利用し、対処していたことがわかった。

田口らの調査と研究が示していることを整理すると、教育技法に関することは初任者にとっては不安が大きいものであるが、あくまで技法の問題であるため、技法の学習と利用、教育経験で不安が低減していくが、教育システムに関する不安は初任者と中堅の教員双方にとって大きな問題と認識されており、大学職員や同期のネットワークなど社会的な解決法が必要であるように思われる。大学という組織は企業の業務遂行形態と異なり、日常的にチームで業務を行うこと大変少ない。それは教員間の活動が可視化されにくいことも同時に示しており、教育システムという一種、社会的なものに対する学習の場が制限されている可能性も考えられる。FD は一時的な効果があるだけで持続性がないという批判も大学教育学会の課題発表では問題点として指摘されているが、FD が持続性あるものにするには教員が所属する部局という**社会構造の中で学習の場を構成できるかどうか**に強く関係しているように思われる。

また田口ら（2006）では高等教育機関が初任者に対してどのような FD を行っているのか調査も行われている。興味がある方はぜひ参考にしたい。

#### 参考文献

田口真奈、西森年寿、神藤貴昭、中村晃、中原淳(2006) 高等教育機関における初任者を対象とした FD の現状と課題、日本教育工学会論文誌, 30(1), 19-28

田口真奈、神藤貴昭(2007b)、大学教員初任者の初年次の不安と期待に関するケーススタディ、日本教育工学会論文誌, 31(Suppl.), 153-156

中村晃、神藤貴昭、田口真奈、西森年寿、中原淳(2004) 大学教員初任者の不安に関する研究（Ⅰ）－不安の構造、日本教育心理学会第 46 回大会発表論文集、53

（文責 教育支援システム研究部門 山田政寛）

#### ○●○「第 2 回 教育効果と FD に関する教員アンケート」の集計および分析結果 ○●○

2009 年 3 月 31 日より 5 月 12 日の期間で、アカンサスポータル内で実施いたしました『第 2 回 教育効果と FD に関する教員アンケート』の集計結果および第一次の分析結果を、同ポータル内の【その他情報】・【FD/SD】・【アカンサス FD】－【解説】、さらにセンターWEB 上でも【アンケート調査の公表】の項目において、「(A) 金沢大学教員を対象としたアンケート結果」－「共同学習会（末本哲雄，第 241 回共同学習会，2009 年 8 月 3 日）」として報告データ（PDF ファイル）を掲載しております。ご参照いただければ幸いです。